



# 河小だより



四日市市立河原田小学校  
学校通信 第25号  
令和5年 9月29日(金)  
文責 校長 鳥居 純樹

朝夕は過ごしやすくなり、秋の訪れを感じられるようになってきました。明日に迫った運動会でカッコいい姿を見せられるように子どもたちも精一杯練習に取り組んでいます。体育での学習成果を見ていただくとともに一人ではできないみんなといっしょだからがんばれるすがた、みんなといっしょに協力したから出せる美しさがあると思います。明日の運動会では、子どもたちのがんばりを見ていただくとともに集団としての魅せる演技に注目していただき、集団としての高まりを感じてもらえればと考えています。

## こころの劇場

9月22日(金)劇団四季こころの劇場に学校代表として文化会館まででかけ、「ジョン万次郎の夢」というミュージカルを鑑賞してきました。

こころの劇場は、劇団四季と一般財団法人舞台芸術センターが主催して、全国の子どもたちに無料で学校単位での演劇鑑賞ができるよう取り組んでいただいているものです。舞台を通して「生命の大切さ」「人を思いやる心」「信じあう喜び」などを子どもたちに語りかけたい、その主旨に賛同いただいた企業が協賛していただき、子どもたちを招待していただいています。

6年生の子どもたちにとって、劇団四季のミュージカルを間近で見る機会となりました。当日は、JRで文化会館まで電車と徒歩で出かけました。子どもたちには、学校代表として参加しているので、責任ある行動をすることを話しました。

子どもたちは、音楽が始まると手拍子したり、素敵な場面では大きな拍手を送ったりして本物のミュージカルを楽しむことができました。

ジョン万次郎は、鎖国が続く江戸時代にアメリカにわたり、日本の鎖国を解くために再び日本に命をかけて戻り、開国にむけての一步を踏み出すことに成功しました。当時の日本では、南蛮(欧米諸国)はおそろしい存在と考えられていました。南蛮人の温かさにふれ、日本の考え方は間違っていると気づいた万次郎、日本に戻ることは命の保障もなく、相当な勇気がないとできないことと改めて感じました。演者の声量や表現力だけでなく、主人公の生きざまにも子どもたちは心打たれるものはあったと思います。

先人の努力の上に私たちの生活は成り立っています。先人同様その時々の岐路で正しく判断していくことが未来の日本をつくることにつながっていることと思います。



## 10月の行事予定

- 2日(月) 運動会代休
- 4日(水) 特別支援学級連合運動会(四日市ドーム) 完全定時退校日
- 5日(木) 3年防火教室 SC来校日
- 6日(金) HEF来校
- 9日(月) スポーツの日
- 11日(水) 6年三泗陸上記録会(中央緑地競技場)
- 12日(木) 3年陶芸教室
- 16日(月) ぶっくんさん読み聞かせ HEF来校
- 17日(火) 2年にし学園交流
- 18日(水)~19日(木) 5年自然教室
- 19日(木) 3年消防団見学
- 20日(金) 定時退校日
- 25日(木) 南中乗り入れ授業 卒業アルバム撮影
- 26日(木) SC来校日 就学時健康診断
- 30日(月) HEF来校
- 30日(月)~11月10日(金) 図書館まつり※



※ 今回は二週間取り組みます。ご家庭でもノーマディアデーや夕読のご協力をお願いします。

## 教育実習生の授業より

今日で教育実習期間の2週間が終わりました。3年A組で国語・算数などの授業を実際にしながら子どもたちの指導について学んでもらいました。自分の授業をふりかえり、次の授業にはその課題を解決できるような手立てをもち授業に臨んでいる姿勢は、頭が下がりました。

26日(火)に道徳の時間、「みんなのものを大切にすること」について考えました。クラスのボールを休み時間持ち帰らなかった教材からクラスのを大切にすることについて考えました。3年A組でも同じようなことがあったようで「ルールや係を決める」「気が付いた人が持ち帰る」などの意見が出ました。大切なことはルールを決めることではなく、一人一人がみんなのものを大切に使うことだと思います。「なくなったら困る」という思いがあれば、必ず持って帰ることができるはずです。クラスや学校でのルールはみんなで決めた一つの指針です。守ることでみんなが気持ちよく過ごせることにもつながります。ルールだから守るのではなく、どうしてそのルールは存在しているのか、その意味を子どもたちなりに理解していくことが道徳の授業後の実践につながっていくものだと思います。

子どもたちへの授業を通して、教育実習生は様々な学びがあったかと思います。また子どもたちもたくさん時間をいっしょに楽しくすごすことができ、笑顔で休み時間を過ごすことができました。

今回の教育実習を今後のキャリアに活かして教職員としてともに子どもたちのために働くことができる日を楽しみにしています。

